

# 知的障がい特別支援学級 生活単元学習学習指導案

日 時 平成30年10月24日(水) 公開授業1

児 童 1年 1名 2年 2名 計3名

場 所 体育館

授業者 井上 美由紀 学校サポーター 佐々木 庸子

共同授業者 伊藤 克彦

1 単元名 それ行け！花小にんじゃ隊

2 単元設定の理由

(1) 児童について

本学級は2年男子1名、2年女子1名、1年女子1名の3名が在籍している。2年生2名は音楽と体育で2年生と交流及び共同学習(以下交流とする)を行い、それ以外は本学級で学習している。1年生は国語、算数、生活単元学習を本学級で学習し、そのほかは1年生教室で交流を行っている。

2年2名は、同年齢の児童とかかわりながら遊んだり学習したりするには大人の支援を必要とするが、45分程度であれば集団の活動に参加することができる。身体機能の未熟さや経験不足による身体のコントロールの難しさがあるため、体育の際には必ず担任と学校サポーターが同行し安全への配慮をする必要がある。

1年生は、周囲の児童の言動を真似て行動することができるため、交流では1年担任の支援を受け学習に取り組んでいる。しかし、抽象的な内容や臨機応変に状況を把握することは難しいため、状況や約束について個別に支援する必要がある。

3名とも交流の場面では周囲の児童と同じように行動しようと精一杯がんばる様子がみられる。その分、本学級の学習では最後に好きな活動を取り入れるなどして適度に休息をとりながら行っている。3名とも活動を楽しむ中で主体的に活動する姿が見られる。そこで、生活単元学習の中で遊びの単元を設定し、友だちとの関わり方を学んだり身体のバランス感覚等の発達を促したりする運動を行い、教科や自立活動と合わせた指導を行っている。

(2) 単元について

本校ではねらいと内容により、知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級の児童と一緒に活動する学習の機会を設定している。

児童はこれまでも行事等の取組と一緒に活動してきたが、児童同士が主体的にかかわり合うことは難しかったので、今年度は1学期に運動を介して関わり合う活動を自閉症・情緒障がい学級(3年生1名が在籍)と一緒にに行った。児童が大好きな忍者の動きを取り入れた活動であった。運動を通して楽しい時間を共有し、一緒に楽しく遊ぶ体験を積み重ねることで、児童同士のかかわり合いが増えており、初めて単元の最後まで4名で同じ活動に取り組むことができた。

本単元「それいけ！花小にんじゃ隊」は、1学期の活動を発展し、忍者の頭領からの指令によりみんなで宝を探すという活動である。週1回行う自閉症・情緒障がい特別支援学級との合同学習の時間に、忍者の動きの訓練に見立てたサーキット運動による準備運動を毎回行う。その後、これまで国語、算数、図工、体育などで身につけた力を生かし、形をよく見て地図パズルを完成したり、平仮名を読み呪文を唱えたりして宝を見つけるまでの活動に取り組んでいく。できることを使って一つ一つの活動をやり遂げれば意欲が持続し、活動に没頭できるだけでなく、児童同

士のコミュニケーションの機会が増えるであろう。また、児童が協力し一緒に取り組んで課題を解決すれば、自発的にかかわり合い、助け合うことでやり遂げる楽しさを味わうことができ、さらには、自分がしたことみんなの役に立ったという自己有用感にもつながると考える。

### (3) 指導にあたって

本単元は全12時間で構成する。自閉症・情緒障がい特別支援学級とは週1回体育館に活動の場を設定し、合同学習として行う。その他の時間は本学級で活動する。

単元の導入では、1学期の活動を引継ぎ、児童達に隠された忍者の宝を探しだし、届けるという指令が伝えられる。宝を探すためには4つの手順を踏まなければならない、そのための活動を合同学習として体育館で行う。活動の最後には振り返りを行い、宝探しがどこまで進んだかをがんばりカードで確認する。見える形で示すことで活動の流れへの理解を助け、次の時間に向け意欲を持続できるようにする。

本学級では活動の準備として、活動の道具作りを行う。図工で学習したはさみやのり、絵の具を使った制作活動により、忍者らしさや宝探しの雰囲気を作り、意欲を高める。

宝探しの手順1は暗号文解読である。宝探しの手掛かりとなる文を提示し、暗号解読のために3年生を中心に考えたり、ヒントをもとに解読したりする活動を行う。児童は、平仮名を読んだりヒントの文字を文中から見つけたりすることで国語の力を使う。1年生は自分で暗号文を読み、ヒントについて自閉症・情緒障がい学級の3年生(以下3年生とする)と相談できると思われる。2年生は暗号文の中から文字を見つけ、印を付けていく作業に取り組むことができる。それぞれができることに取り組むことで、暗号文解読の活動を楽しめるようにする。

手順2は地図の復元である。バラバラのパズルになっている地図を手分けして復元する。3年児童には難しい部分を受け持ってもらい、1、2年生はそれぞれができる数のピースを組み合わせ、最後に全部を合わせて完成とする。地図は色つきにして、組み合わせる際の手掛かりになるようにする。2年生2名がパズルのピースを操作しやすいよう、大きさは5cm四方程度とし、組み合わせる作業がしやすいよう、下に滑り止めシートを敷く。

手順3は、まと当てである。暗号文を解読し地図を完成した結果、宝を隠した場所の扉を開けるには呪文が必要であると分かる。呪文を手に入れるため、まと当てで高得点を出さなければならないこととし、ここで算数の学習を活用する。1、2年生は自分の玉が的に当たった数を数える。3年生に合計数を計算してもらい、目標の得点になったら呪文をもらうことができる。1年生は30まで自分で数えることができるので、数える際には2年生にT2、サポーターが付き1対1対応できているかを見守る。正しく数えられたかどうか3年生に確認をもらい、足りない場合は再度挑戦することにする。

手順4は宝の隠し場所の扉を開ける呪文の練習である。呪文は3つとし、第1の呪文は3年生、第2の呪文は1年生、第3の呪文は全員で唱える。2年生は第3の呪文を唱える練習をする。難易度の違う呪文にすることで、児童が主体的に練習するようになりたい。第3の呪文は全員で言うことが宝箱を開く条件のため、全員でそろって言う練習をする。みんなで声を出す楽しさも味わわせたい。

最後は宝を届け、ご褒美をもらう。ご褒美は、指令をやり遂げたという達成感をもつことができるよう、一人一人が受け取ることができる物にする。みんなでやり遂げたことを実感できるように全員が同じ物もらい、4人で力を合わせた印として大事にするよう伝える。みんなで楽しい活動ができたことを認め合い、達成感をもつことができると思う。

3 単元の目標 ( )は関連する教科・領域

- 物と数詞を1対1対応し、数を数えることができる。(算数)
- 短い文を声に出して読むことができる。(国語)
- 体全体を使って運動を楽しむことができる。(体育)
- のりやはさみなどの道具を使って身につける物を作ることができる。(図工)
- 友だちと進んでかかわりながら活動に取り組むことができる。(生活・自立)
- 準備や後片付けの際に自分の役割を果たすことができる。(生活・道徳)

4 児童の本単元に関わる実態と目標

児童	本単元に関わる実態	目 標
1年 A (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を最後まで聞くことができる。</li> <li>・周囲の児童の行動を見て真似ることができる。</li> <li>・困っている友だちを助けようとする。</li> <li>・視覚的支援があれば20分程度集中することができる。</li> <li>・理解した約束を守ろうとする。</li> <li>・覚えたことは言われなくてもできる。</li> <li>・活動や相手とのかかわりを楽しもうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を守って活動することができる。</li> <li>・教師の話を最後まで聞いて活動することができる。</li> <li>・活動の中で自分なりの工夫をしようとする。</li> </ul>
2年 B (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあることには率先して取り組む。</li> <li>・簡単な指示を理解できる。</li> <li>・教師や友だちのしている事を真似ることができる。</li> <li>・斜視のため視野が狭く眼鏡を使用している。</li> <li>・頸椎が弱く首に負担がかかる運動を制限されている。</li> <li>・筋力が弱いため運動の際は休憩が必要である。</li> <li>・好奇心旺盛で、自分でやろうとする気持ち強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる活動に楽しく参加することができる。</li> <li>・順番を守って活動することができる。</li> <li>・教師と一緒に準備や後片付けを行うことができる。</li> </ul>
2年 C (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な指示を理解できる。</li> <li>・指示が分かると取り組むことができる。</li> <li>・覚えた作業や行動は自分から行う。</li> <li>・発話が少ないが、行動や短い言葉で自分の気持ちを表現することができる。</li> <li>・気に入った活動や学習に自分から取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと一緒に活動を楽しむことができる。</li> <li>・最後まで活動に取り組むことができる。</li> <li>・準備や後片付けを行うことができる。</li> </ul>

5 単元指導計画 (12時間)

活動内容	時間数	目 標	児童
①指令を読み、意欲をもつ ・宝探しのための道具を作る。	4時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで話を聞きどんな活動をするかが分かる。</li> <li>・活動の準備に必要な物を考えることができる。</li> </ul>	1年A
	合同は第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への意欲をもつことができる。</li> <li>・のりやはさみ、絵の具を使って、教師と一緒に活動の道具を作ろうとする。</li> </ul>	2年 B・C
②暗号文を解読する ・それぞれの暗号文を解読し、次の手掛かりをつかむ。	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗号文を自分で読み、指示の内容が分かる。</li> <li>・解読のための文字を見つけることができる。</li> </ul>	1年A
	合同は第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗号文を一人で読むことができる。</li> <li>・解読のための文字を見つけることができる。</li> </ul>	2年B

		・暗号文の中から「た」を見つけることができる。	2年C
③地図を復元する ・ばらばらの地図パズルを復元する。	2時間	・パズルを完成し、形を見つけることができる。	1年A
	合同は	・パズルに取り組むことができる。	2年B
	第2時	・一人でパズルを完成することができる。	2年C
④まと当てをする ・まと当ての練習をして呪文を見つける。	2時間	・投げる位置を考えて的に当てることができる。	1年A
	第2時	・的に向けて玉を投げるができる。	2年B
		・的に当たるよう投げ方を工夫することができる。	2年C
⑤呪文を唱える ・3つの呪文を言えるよう練習する。	1時間	・呪文をすらすら唱えることができる。	1年A
	(本時)	・短い呪文を読むことができる。	2年B
	合同	・呪文の文字を平仮名表から見つけることができる。	2年C
⑥宝を手に入れる ・宝を見つけたご褒美をもらう。	1時間	・宝を見つけた感想を話すことができる。	1年A
	合同	・宝を見つけた感想を話すことができる。	2年B
		・宝を見つけた気持ちを選択肢から選ぶことができる。	2年C

## 6 本時の指導

### (1) 目標

- ア 友だちと関わりながら楽しく活動することができる。(意欲・関心・態度) …生活 (2段階) 及び自立活動 (3人間関係の形成, 4環境の把握, 6コミュニケーション) と関連
- イ 言葉の響きやリズムを感じながら呪文を言うことができる。(思考・判断・表現) …国語 (2段階の知識及び技能) と関連
- ウ 自分の役割を最後まで行うことができる。(技能) …生活 (2段階), 道徳と関連

### (2) 指導及び支援の手立て

本時は宝のありかの扉を開くために、呪文を唱える活動を行う。第1の呪文は漢字かな交じりの文のため、3年生が担当する。第2の呪文は平仮名のみだが2行程度の文で、1年生が担当する。第3の呪文は1語文だが全員で唱えることとし、2年生が先に練習する。2年Cが平仮名表から文字を取り出して言葉にし、2年Bが言葉を読んでCに教える。難易度の違う呪文にすることで、児童が主体的に練習するようになりたい。第1、第2の呪文はすらすら唱えること、第3の呪文は全員で声を合わせて言うことを、宝箱を開く条件とする。3年生が下級生の呪文をチェックし、全員でそろって言うことができるよう練習する。みんなで声を出す楽しさも味わわせたい。個々の児童の目標と支援の手立ては以下のとおりである。

児童	個々の目標	支援の手立て
1年 A (女)	・忍者の呪文を声に出して自分で読むことができる。 ・用具の準備や後片付けを進んで行う。	・平仮名50音表をそばに置き、分からない文字を探すことができるようにする。 ・役割分担の際に名前と仕事を対応しておく。
2年 B (女)	・自分で呪文を読むことができる。 ・教師と一緒に準備や片付けができる。	・平仮名を確認したら指示棒を貸し、声を出して読むよう促す。 ・役割が分かるよう絵と文字で示す。
2年 C (男)	・呪文の言葉を平仮名カードで並べることができる。 ・自分の役割が分かり行おうとする。	・平仮名50音カードを貼ったホワイトボードを用意し、呪文の文字を選ぶことができるようにする。 ・役割が分かるよう準備物の写真に名前をはる。

(3) 本時の展開

階	学習活動(○発問●指示)	指導及び支援上の留意点(・)と支援(○) 評価(◎) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手立て</span> に関わる支援(→)	準備
つ か む  10 分	<p>1 あいさつをする ● 始まりの挨拶をしましょう。</p> <p>2 学習の見通しをもつ ○ 今日は何をしますか。</p> <p>3 準備をする ● 誰が何を準備するか、確かめましょう。</p>	<p>○ T 1 は自閉症・情緒障がい特別支援学級担任， T 2 は知的障がい特別支援学級担任が行う。学校サポーター（以下Sとする）は主に2年Cを支援する。 ○ 児童のリーダーを3年生とし，意欲づけを図る。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手立て1 見通しをもつための工夫</span>          ・ 教師と一緒に本時の学習活動を確認をする。          → 学習内容を示した紙板書で確認する。          → 活動時間を視覚的に捉えられるようタイムタイマーで示す。          ・ 準備の役割分担を確認する。          ・ 友だちや教師と一緒に，準備をする。          → 準備物の写真と児童の写真を対応し，見て分かるようにする。          → サーキットの用具を自分たちで並べられるよう，設置場所を写真や目印のテープで示しておく。トンネルの設置は事前に教師が行う。          ◎ 自分の担当する用具を準備することができたか。</p>	<p>移動黒板 準備物と児童・教師の写真 タイムタイマー 紙板書</p> <p>設置場所の掲示 ケンステップ マット ミニハードル トンネル 平均台 玉入れの籠 玉入れの玉</p>
か か わ る  25 分	<p>4 準備運動をする ○ 準備運動を何回やりま すか。 ● 元気に「勇気100%」 を歌いましょう。</p> <p>5 めあての確認をする ● 今日めあてを読みま しょう。 ● 呪文は3つあります。</p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手立て2 主体的に活動するための工夫</span>          → 準備運動でサーキットを何回行うか，一人ずつ確認する。          ・ 全員で歌を歌ってからスタートする。          ・ 楽しい雰囲気になるよう，教師も元気よく歌う。          ○ トンネルはT 1， マットはT 2がついて2年生の補助をする。          ○ 2年Bにはマットの際にジャンプか横転がりを行うよう支援する。</p> <p>・ リーダー（3年生）がめあてを読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>じゅもんをとなえて，とびらをあげよう。</p> </div> <p>・ 呪文が3つあること，それぞれの呪文を誰が言うかを知る。          ・ 呼吸や姿勢を整えて，「パタカラ」の歌（発音練習の歌）を歌う。</p>	<p>CDプレーヤー 歌の歌詞 ホワイトボード 磁石</p> <p>呪文を書いた巻物</p>

か か わ る  25 分	6 呪文の練習をする ●呪文を言う前に、姿勢の修行をしましょう。	<u>手立て2 主体的に活動するための工夫</u> ・それぞれの呪文を練習する。 ・リーダーが下級生の呪文を聞いてチェックする。リーダーのチェックはT1が行う。			「パタカラ」の紙
	●自分の呪文を練習しましょう。	1年A	2年B	2年C	平仮名シート 平仮名カード 指示棒
	●全員で呪文を唱えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2の呪文を練習する。</li> <li>→手鏡を見て口をはっきりあけるよう促す。</li> <li>・すらすら言えるようになったらリーダーに聞いてもらう。</li> <li>→チェックに合格したら、シールをもらう。</li> <li>・早くできたら呪文をはっきり大きな声で言えるよう練習する。</li> </ul> ◎口をはっきり動かして呪文を言うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3の呪文を練習する</li> <li>→自分で読むことができるよう、呪文の言葉を指示棒で示す。</li> <li>→2年Cの手本としてはっきり言うよう促す。</li> <li>・言えるようになったら、リーダーに聞いてもらう</li> <li>→チェックに合格したら、シールをもらう。</li> </ul> ◎呪文を大きな声で言うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>→第3の呪文の言葉を平仮名五十音カードから探し、並べる。</li> <li>・2年Bと一緒に読む。</li> <li>→Sも繰り返し一緒に読み、聞いて覚えることができるよう支援する。</li> <li>・言えるようになったら3年生に聞いてもらう。</li> <li>→チェックに合格したら、シールをもらう。</li> </ul> ◎友だちや教師と一緒に呪文を言うことができたか。	チェックカード シール
ふ り か え る 10 分	7 学習を振り返る ●呪文を言えましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のカードとみんなのがんばりカードにシールをはる。</li> <li>◎がんばったことを振り返り、挙手や感想発表で表現することができたか。</li> </ul>			がんばりカード
8 次時の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は宝箱を開ける事を伝える。</li> </ul>				
9 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終わりのあいさつをする。</li> <li>・自分が準備した物を片付ける。</li> </ul>				

(4) 評価

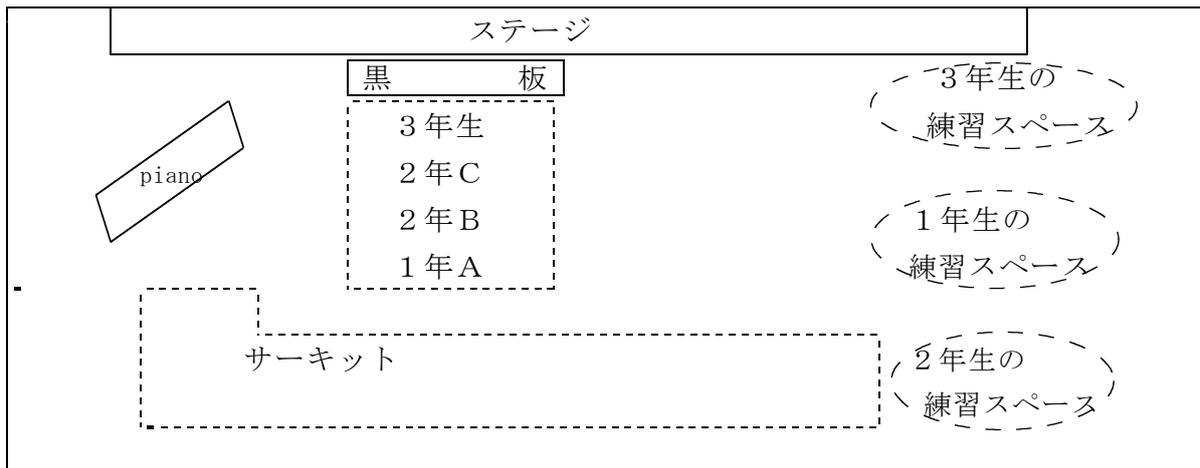
手立て1 見通しをもつための工夫について

- ・「つかむ」で時間の目安や役割分担等を視覚的に提示することにより、児童が見通しをもって活動できたか。

手立て2 主体的に活動するための工夫について

- ・「かかわる」の準備運動や呪文を唱える場面で、個別に活動する場を設定することで、児童が主体的に活動できたか。

(5) 場の設定



(6) 板書計画

